

# 7年目の春。

## あの震災を忘れない

風化させてはいけない記憶

2011  
東日本  
大震災

あの大きな被害を各地にもたらした  
東日本大震災から7年が過ぎようとしています。

笠間市では、平成23年3月11日に発生した東日本大震災により被災した市町村の復旧の一助となるべく、岩手県宮古市、宮城県多賀城市に、7人の職員を派遣し、現地の職員と共に、復旧復興に尽力しました。

今月は、あの震災から7年が経ち、風化させてはいけない記憶として、被災地に派遣された職員を通して、平時の心構えや笠間市の防災・減災の取り組みをご紹介します。

### 座談会／宮古市派遣職員4人が学んだ知識と経験 〈行政の対応と自助〉



きくち けいいち  
菊地 恵一 さん

派遣年度：平成24年度  
総務課 総務グループ

宮古市には行けませんので2年目の派遣になりました。

**(近藤)** 平成26、27年度の2年間、行かせてもらいました。実は、震災の直後から休暇のたびに北茨城市や宮城県石巻市などでボランティア活動をしていました。

**(滝本)** 僕は皆さんと違い、指名されて派遣されました。ある程度の復旧復興が進んでくると、「この仕事を理解している人がほしい」と具体的な条件が出され、その条件に合ったんだと思います。もちろん断る理由はありませんから、力になるならと思いかせていただきました。



まえの つとむ  
前野 勉 さん

派遣年度：平成25年度  
社会福祉課 保護グループ

に入居したのはビジネスホテルでした。部屋には窓が一つしかなく、息苦しかったことを覚えています。

**(近藤)** 日々生活するのがやっとで、市民も行政も疲れていましたね。でも諦めたら終わっちゃうんですよ。誰かの言葉じゃないけど、「元気があれば何でもできる」そう言って歯を食いしばりましたね。そうすると、明るくなるんですよ、ポジティブな言葉を発すると。

**(前野)** 部屋に帰る頃は夜中で、何か食べようかなと思っても力尽きて寝ちゃったりしてね。食事ができる店舗も少なく、でも少しずつラーメン屋ができて、派遣が終わる3月には、たくさんできていました。

### 派遣のいきさつは。

**(菊地)** 震災当時は、社会福祉課に配属されていて、市内で被災された方の支援に携わっていたので、こんな私でも、何か役に立てればと思いました。

**(前野)** 当時は総務課災害対策本部として動いていて、さすがにその立場では、

### 派遣当時の様子は。

**(菊地)** すでに震災から1年が経過していました。しかし、宮古市内は震災当時のまま。だから、住まいを見つけないのが難しかったです。宮古市内のアパートは、地元の方の仮住まいとなっていて、空きが全くない状態だったので、最初

## 特に大変だったことは。

**(菊地)**被災者支援の相談をしていました。被災していても支援の対象にならない方がいて、何もしてあげられない。この時ほど、やるせなさを感じたことはないです。

**(近藤)**避難経路の道路整備をしていましたが、地理が分からない。時間を見つけてはとにかく市内を歩いて、少しでも覚えようと思いました。

**(滝本)**近藤さんと同じ仕事でした。一番は言葉の壁です！特に電話で宮古弁は全く分からない。直接顔を見て、話して、理解していました。

## 7年目の春を迎えますが。

**(近藤)**宮古市の職員は一人一人の役割も明確になっているし、何度も命を失うような災害に遭遇している地域なので市民それぞれの防災意識がすごく高い。毎年3月11日は朝6時に津波が来たという想定で避難訓練を実施していて、それにみんなが参加するんです。災害の教訓を生かして絶対に忘れないという強い意志を感じます。

**(滝本)**本当に防災意識が高いと感じます。防災グッズも皆さん揃えていて、何よりも自分はどうすればよいか、何をを行うかが頭に入っていますよね。

## 被災地派遣を経験して、心掛けていることは。

**(菊地)**初心に帰る。そして、“誠心誠意”物事にあたる。

**(前野)**継続は力なり。続けていくことが大切。

**(近藤)**古い中国の言葉で、居安思危こあんしきです。「何も恐れのない安らかなときに危機のことを考える」

**(滝本)**明日がある。何とかなる。やはり前向きに進んでいくことです。それと、食べられるときはおなかいっぱい食べる。腹がすいては、戦はできません。



近藤 智広 さん

派遣年度：平成26、27年度  
総務課 危機管理室

## 宮古市職員とのつながりは。

**(前野)**ハーフマラソン大会に宮古市の職員が参加してくれたり、今でも連絡を取り合っています。

**(滝本)**つながりと言えば、宮古市職員を

お嫁さんに連れて帰ってきた近藤さんでしょう。1年間の派遣では、そこまで行かない。やはり2年間は強い。

**(二同)笑**



滝本 秀明 さん

派遣年度：平成28年度  
資産経営課 資産グループ

## 被災地での経験を

## 笠間市の防災のあり方に 取り入れていたりしますか。

**(近藤)**避難所にある備蓄品の見直しや、機材の充実など改善を図っています。経験上、実際に使えるもの、使えないものが明確に分かっているので、有効なものに取り替えるようにしています。例えば、非常食は27品目をアレルギーフリーのものに取り替え始めています。**(菊地)**制度の面でいえば、国が示した被災者支援制度だけではなく、地域独自の制度をつくって対応する経験もしてノウハウは持っています。地域の連携を含めた体制づくりやその知識を生かして笠間市にあった制度づくりなど形あるものにしていくことです。

## 市民の皆さんに向けて

笠間市は、災害の少ないところで非常に住みやすい地域です。災害は起こらないに越したことはありませんが、備えは必要です。恵まれている環境だからこそ油断してしまうと考えています。

東日本大震災後に防災グッズなど揃えた方も多いと思います。時間が経過すると忘れてしまうことも。グッズの中身を定期的に点検している方はどれくらいいるでしょうか。

もし、災害が起こってしまった場合は、もちろん行政は最善を尽くします。組織で動きます。

しかし、本当の危機管理をするのは自分自身です。行政依存の立ち位置ではなく、自らはどうするべきなのかを問いかけながら、あの時の記憶を風化させずに、教訓にしていきたいと思います。

昔から地震、雷、火事、親父と言われるように、笠間市は地理的条件から地震による被害が一番大きくなる可能性があります。

一人ひとりが手を取り合って、笠間市を災害に強いまちにしていきたいと思います！



災害に対する備えは万全ですか？

みなさんの大切なものは何ですか？ それを守る手段は？

さまざまな災害から身を守るには、日頃の準備と予習が必要です！



## ポイント① 防災気象情報に注意

心得1 気象情報を役立てることが大切

普段何気なく聞いている気象情報ですが、台風や発達した温帯低気圧などが発生した時の気象情報は特に注意が必要です。暴風雨によってもたらされる強風と大雨による災害が広範囲に入り混じって発生する風水害の威力は計り知れません。テレビ、ラジオなどから最新の気象情報を収集して、万全の対策をとることが重要です。

心得2 日ごろからの心がけが重要

実際に災害が近づいてきたときのため、準備をしておくことが重要です。



### 例えば…

- 気象情報に気をつける。
- テレビ、ラジオなどから最新情報を入手する。
- 住んでいる家屋の状態を把握する。
- 避難場所がどこにあるのか確かめておく。
- 非常時に持ち出すものを準備する。
- 危険な場所には近づかない。



はなわ たか ゆき  
埴隆之さん

派遣年度：平成24年度  
建設課 整備第二グループ



情報収集が大切！



## ポイント②

## 避難のポイントを覚える

心得3 避難は自ら判断を

災害が迫ったときの状況は一人一人違うので自ら判断して適切な行動を取らなければなりません。自分の住んでいる地域が、土砂災害の危険があるのか、浸水の危険があるのかなど、普段から確認しておき、状況によっては、早めの避難を心がけてください。



# 7年目の春。多賀城市派遣職員3人が語る 3つのポイントと7つの心得

## ポイント③ 災害に備えた準備を

### 心得5 家の中の安全対策

転ばぬ先の杖ではありませんが、いざという時のために家の中を点検しておくことが効果的です。家の中に逃げ場として安全な場所(スペース)ができるように家具の配置を換えましょう。もちろん、寝室、高齢者や子どものいる部屋には家具を置かないようにすることも重要です。出入口や通路に物を置くことは安全に避難することを妨げますので、物を置かないようにしてください。



はしもと あきひろ  
橋本 昭博 さん

派遣年度:平成26年度  
財政課 財政グループ

### 心得7 非常持ち出し品の確認をする

【非常食】カンパン、缶詰、レトルト食品、飲料水。

【生活用品】懐中電灯、マッチやライター、ローソク、洗面用具、タオル、ティッシュ、ビニール袋など。

【貴重品】通帳、印鑑、現金、保険証など。

【衣類】下着、靴下、手袋、ジャンパー、スニーカーなど。

【その他】ヘルメット、防災ずきん、毛布、携帯ラジオ、予備電池、常備薬など。

### 心得6 家の中の安全対策

- 窓にガタツキが無いかな？
- 飛ばされそうな植木や物干しは無いかな？
- 屋根瓦やトタンがめくれたり壊れたりしていないかな？
- 雨どいに枯葉や砂が詰まっていないかな？
- プロパンガスのボンベは固定されているかな？



定期的な  
確認を!



たなか ひろし  
田中 博 さん

派遣年度:平成25年度  
農政課 農政企画室



### 心得4 命を守る最低限の行動を

危険な状況下での避難はできるだけ避け、安全の確保を第一に考えてください。特に夜間や急激な降雨のときは、避難する際の危険個所が分かりにくいので、屋外での移動には危険が伴います。建物倒壊の危険が無い場合は、自宅や近隣の2階以上へ避難し、救助を待つことも検討してください。

安全の  
確保が第一  
です!



# 被災地派遣をへて笠間市が学び 未来へと繋げていく取組み



## 自主防災組織の 組織率向上

### 自主防災組織とは

自主防災組織とは、大規模な災害が発生した場合に建物の倒壊や道路の寸断などによる交通・通信手段の混乱などで、市や消防署などの防災機関だけでは十分な防災活動ができないことが予想され、「自分たちの地域は自分たちで守る」という「自助・共助」の精神で、自発的な救出救護などの防災活動をする組織をいいます。

### 自主防災組織の役割

地域内で自主的に防災活動を行う自主防災組織の役割としては、次のようなことが考えられます。

- 1 市役所、消防署など防災機関との情報交換や地域住民への情報の伝達
- 2 火災の発生防止や初期消火
- 3 地域住民の安否の確認
- 4 地域住民が安全に避難するための誘導

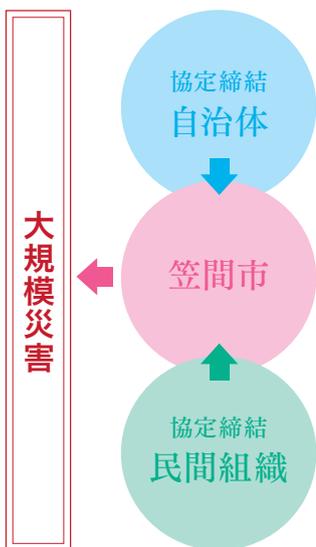


## 災害時支援協定の 締結の推進

### 災害時支援協定とは

大規模災害発生時などの事態に対処する手段の一つとして、物資の供給、医療救護活動、緊急輸送活動等の各種応急復旧活動について被災自治体をサポートする旨の協定が、自治体間や自治体と民間事業者、関係機関との間で締結されています。民間事業者や、自治体にはない専門的な技術や知識、資機材などを有していることから、様々な分野の民間事業者と協定を締結することで、広域的確な応急復旧活動が期待できます。

### 災害対応における連携



## 防災士資格取得の 補助事業

### 防災士とは

「防災士」とは、自助・共助・公助を原則として防災の意識・知識・技能を有していると、NPO法人日本防災士機構が認めた人であり、市では、防災に関する地域リーダーの養成と自主防災組織の組織強化を目的として推進し、地域防災力の向上を図っております。

### 補助制度

対象者
市内に住所を有する者又は市内に所在する事業所に勤務する者(受講前に申請が必要)
補助額
上限5,000円 (経費合計額の2分の1以内)

# 笠間市 防災士 86人

家族や友人、地域の人たち、  
なによりも自分の命を守るために、  
資格取得を通じて学んでください

補助事業名	補助対象経費	補助金の額
自主防災組織 結成事業	結成検討会議開催費、防災マップ・カルテ等の作成費、研修会等開催費、防災訓練経費、その他組織結成・活動に要する経費	1組織当たり 10万円以内
自主防災組織 資機材等 整備事業	メガホン、消火器、救助用工具(シャベル、ジャッキ)等の災害時の活動に必要な資機材及び備蓄食料の購入経費	1組織当たりの 補助対象経費の 1/2以内の額 (限度額10万円)

※1組織当たり1回限り

自主防災  
組織率 **60.65%**  
結成組織数 143件

地域の交流を深めていただき、ご近所とのお付き合いから助け合いの輪を広げてください



協定締結  
件数 **41件**

笠間市は災害対応の多様な局面での支援に関する協定を各地方自治体や民間組織と締結しています

**自主防災組織結成の流れ**

1. 自主防災組織についての話し合い
2. 組織結成について決定
3. 各種書類の作成

○組織規約 ○実施計画(活動計画) ○防災計画  
○防災カルテ ○防災マップ ○結成届 ○防災訓練実施計画等

**補助事業の活用**

自主防災組織の結成及び活動に係る費用に対して、自主防災組織活動事業費補助金があります。

- ⑤ 障害者、高齢者などの災害時避難行動要支援者への支援協力
- ⑥ 簡単な工具を使用しての救出や負傷者の救護
- ⑦ 救援物資(食事など)の分配

**相互応援**

災害発生時の物資の提供・職員の派遣・被災者の一時受入・消防相互応援・帰宅困難者の対応等

**医療救護**

災害発生時の医療救護、歯科医療救護の提供

**情報提供**

原子力事業所に係る隣々接市町村域の安全確保のための通報連絡・災害時における各種情報の交換等のため情報連絡員を派遣

**物資・資機材等の提供**

日用品、食料品、作業用物資、消毒防除用資機材、飲料水、食事、浴場、仮設トイレ、建設機械、被災者・要援護者の収容、石油類燃料・LPGガス優先供給等

**作業の実施**

応急作業、物資輸送、公共施設機能確保、車両等のレッカー作業、ドローンによる情報収集等

「**教訓**」を備えに。

東日本大震災から7年が経過しますが、災害に対する脅威、危機感が徐々に薄れつつあるように感じます。

市では、千年に1度の割合で想定される涸沼川の氾濫による最大規模の浸水想定区域を明記したハザードマップを、各家庭に配布しました。この機会にもう一度、ご自分の住まいがどのようなエリアなのか確認しておくことが大切です。

また、いざという時に備えるため、市では食料品をはじめとして、資機材の備蓄や災害時支援協定の締結等を進めていきますが、市民の皆さんにも、最低3日分の食料品や生活必需品等を備えてほしいと考えています。

皆さん、あの時の「教訓」を活かし災害に強いまちづくりを目指していきましょう。

